Pharmaizm
ファルマイズム

株式会社 ファルマ
弘前市北横町 19－1
Tel 0172-37-6016(代)
発行：編集委員会
印刷：小 野 印 刷
■ 第 116 号 ■

3・1ビキニデー

ファルマ一ツ谷薬局　須藤　江利加

2月28日（火）～3月1日（水）に静岡で行われた3・1ビキニデーに参加しました。

初日は静岡市駿河区にあるグランシップで「日本原水協全国集会・全体集会」に参加しました。集会の中で私が特に印象的だったのが、マーシャル諸島元上院議員・ロングラップ島民代表のアバッカ・アンジャイン・マディソンさんのお話です。1954年3月1日アメリカが行った水爆実験によって、マグロ漁船「第五福竜丸」が被ばくし、多くの方が犠牲となったことは知っていましたが、実験が行われたマーシャル諸島に住む方々のことについてはあまり知りませんでした。マーシャル諸島にあるエニウェトク環礁で暮らす人々は、除染が不十分であるにも関わらず帰島させられ、被ばくし甲状腺癌を発症した方が多くいると聴きました。アメリカから缶詰などの食糧支援があっても十分ではなく、食糧が底を尽きると、わかっていても汚染レベルの高い場所へ行き魚を獲らなければ生きていけないそうです。お話の内容は耳を疑うようなものばかりで、本当に心が痛みました。

青森県の参加者の皆さんと
（左端 須藤さん）

翌日は焼津市で行われた「献花墓参平和行進」、「久保山愛吉氏墓前祭」、「被災63年3・1ビキニデー集会」に参加しました。集会では、実際に「第五福竜丸」に乗組員だった方のお話を聞くことができました。「乗組員23名のうち18名は被ばくによって病気となり40、50歳の若さで亡くなってしまった。本当に情けない。この世を去った仲間を思い私は最後まで戦う。」とおっしゃっていた言葉が忘れられません。とても貴重な体験となりました。今回参加させていただき学んだことを、多くの方に伝えていきたいと思います。

献花墓参平和行進の様子

2017年さようなら原発・核燃「3・11」青森集会

本部　主任　阿部　千佳子

3月5日（日）青森市リンクステーションホール青森で開催された「2017年さようなら原発・核燃『3・11』青森集会」に参加しました。ファルマからは総勢28名の参加者でした。

開会の挨拶後、河合弘之弁護士が「原発再稼働と自然エネルギー」のテーマで特別講演をしました。特に印象に残っている言葉が「最後は必ず原発をなくす、でもその間に事故を起こさせないたたかいでもある」という言葉です。福島の原発事故が再び日本のどこかの地域で起こさせないためにも、まずは再稼働中止、いずれは全ての原発廃止、自然エネルギーで安全な暮らしを目指すために力を尽くしたいと思いました。続いて、福島県大熊町木幡ますみ町議会議員から「6年目を迎えるフクシマ」の特別報告があり、福島の方の苦しい、辛い思いを聴きました。その後高橋ちづ子衆議院議員、各地からの報告があり、集会決議文を採択し集会は終了しました。

総勢 30 匹のマグロで青森市内を歩きました

集会の後は、リンクステーションホールから青森県庁までパレードしました。今回のファルマのグッズは、集会の3日前に総勢17名が一所懸命作製した『金魚ねぶたとマグロ』です。特にパレード中は皆さんが背負った『マグロ』が長い列を作ると、遠くから、後ろから非常に目立ち、沿道を歩く人やドライバーにアピールできたと思います。更に今回はファルマレンジャーが6色全て揃い、沿道の方の注目を浴び、マグロとともにレンジャーの写真を撮る方が非常に多くいらっしゃいました。私たちの意思を楽しくアピールできました。これからも、私たちの原発反対の強い意思を身近な人、地域の人に、ファルマ皆で楽しみながらもアピールしていきたいと思います。

パレード終了後に参加者で記念撮影

全日本民医連職場づくり・職場教育実践交流集会in大阪

弘前調剤センター　薬事課　事務長　工藤　敏子

2月10日（金）～11日（土）に全日本民医連職場づくり・職場教育実践交流集会が大阪で開催されました。ファルマからは相馬薬局長・鈴木課長補佐・工藤が参加しました。

まずは問題提起があり、民医連の「教育目標」「職場づくり・職場教育の意義」を確認しました。職場教育が意識的に取り組まれるためには、職場管理者の教育に対する姿勢と、育ちあえる職場づくりの課題を総合的に進めていくことが非常に重要であると話されていました。

民医連が63年という長い歴史をもつことができたのは、どんなに厳しい情勢のもとでも、多くの困難を抱える時代であっても、綱領と総会方針を羅針盤にしながら、前進を築いてきたからです。そのことに確信をもつとともに、教育は民医連運動の土台であり、「地道な学習が運動の力になっている」「組織の前進と社会の進歩に貢献しているという実感」に結び付ける等、教育する側も倫理的に価値あるものとして運動を位置付けていくことが必要だと感じました。改めて「職場管理者の5つの大切」「育ちあいの職場づくりに必要な8つの視点」の実践が求められています。

大阪の交流集会に参加した3名

全日本民医連職場づくり・職場教育実践交流集会をうけて、2月17日(金)に県連教育委員会スキルアップセミナーが開催されました。

第1講座は「ファシリテーターの役割を学び、実践にむすびつける」として講義が行われました。ファシリテーションとは組織の壁を越えて話し合うように促し、人と人を結びつける技術のことです。肩書をいったん取り去ることで、その効果が十分に発揮され、仕事の効率や会議の変革など、様々な効果が得られると感じました。

第2講座は「全日本民医連職場づくり・職場教育実践交流集会」伝達講習でした。民医連運動を実務と別に考え、運動は面倒なことだという概念を自分自身で作っていたのではないか等の感想が出されていました。

スキルアップセミナーで
講師を務めた工藤事務長

ファルマ医療安全委員会学習会

弘前調剤センター　主任　阿保　香織

昨年は『救急救命』、一昨年は『感染』をテーマに講師の先生にご指導いただく形で行っていた学習会ですが、今回は初めてグループワーク形式で行いました。テーマは『調剤過誤』。実際に薬局で起きた過誤を事例として6つ取り上げ、1グループ2事例ずつ、原因や対策など自由に話し合っていただきました。グループは職場や職種を混ぜて編成したので、どのグループも様々な角度から色々な意見が出ており非常に盛り上がりました。〝一包化のチェックは監査台を濃い色に変えてチェックすれば見やすくなるのでは〟〝コンベアを利用することで半錠の包数不足は防げる〟など斬新な発想や、他の店舗で行っている方法を知り、自分たちの職場でどのような形で取り入れていくのがいいかを今後は考えていきたいと思いました。

グループワーク中

石川社長も仰っていましたが〝人は誰でも間違える〟ことを前提にその中でどのように対策を組んでいくかが重要です。対策を考える時に行き詰まってしまうこともありますが、今回のように職場や職種を超えて話し合うことで見えてくるものもたくさんあるのだと実感しました。今後もこのような機会を定期的に設けていきたいと思います。

弘前市の介護保険を良くする会総会で「総合事業」学習会

常務取締役　髙松　利昌

2月23日（木）にファルマ会議室で第3回弘前市の介護保険を良くする会の総会が開催され、冒頭に第一包括支援センター介護長の熊谷光子氏を講師に、この4月から市町村事業としてスタートする「総合事業」について学習を行いました。18年度からは第7期の高齢者福祉・介護事業に移行することから同事業は17年度限りの事業で、全国的にはボランティア組織を募ってスタートする自治体もありますが、「そもそもボランティアをしてくれる住民がいない」と戸惑いを隠せない自治体も多数出てきているとのことです。

参加者からは「年金が少ないので夫婦で施設に入れない。」「行政窓口ではなかなか情報をくれず、親の施設入所申請ではとても困った。」「年金が低い人は現役時も収入が少なかったので預金もない。介護が必要になったらどうしたらいいの。」など、切実な発言が相次ぎました。

同会では、これらの声を元に、今後市との懇談を計画しています。

講師の熊谷光子氏

「青森県民医連の医師確保と養成」学習会

青森民医連弘前事務所　齊藤　駿介

2月22日（水）ファルマ大会議室で「医師をめぐる情勢と医学対の現状」に関する学習会を開催しました。医師医学生分野における課題は各事業所に周知されづらい部分もありますが、今回は現在実施している特徴的な取り組みや新専門医制度の延期、医学部入試について報告しました。青森県民医連における医療活動継続の生命線は医師を自前で確保・養成してきたにあります。現状としては困難な面が多々ありますが、昨年度は青森県民医連の力を結集して9名の奨学生獲得に至る大躍進を遂げることができました。今年度の「医学対 Movement2016～超変革～」でも各法人・事業所の力を合わせて前進していきたいと思います。

講師を務めた齊藤さん（左奥）

わたしのお気に入り

弘前調剤センター　薬事課　佐々木　良太

私の最近のお気に入りを皆さんにご紹介したいと思います。それはトレーニングセット一式です。今年の2月からスポーツクラブの会員登録をしました。なぜかというと、以前学習会で体の血管年齢などを調べた時に、体脂肪率が20％近くあり、大変ショックを受けたことがありました。

また、毎年春に行われる走れメロスマラソンに過去2回出場しましたが、どちらも10㎞1時間を切ることができませんでした。極め付けは県共済野球大会で2試合目に両ふくらはぎを同時につって途中退場をしたことです。体力の大幅な衰えを痛感しました。

日頃からトレーニングをしなくてはと思っていたものの、なかなか実践することができなかった為、会員登録をすることで月々7000円分の元を取ろうと半強制的に行くようになりました。またウェアを新調することで気持ちも高まりよりやる気が湧いてきます。さらに温泉付きですので、たくさん汗をかいても気持ちよく帰ることができますので皆さんにもおすすめです。

今年は体力面もしっかりと強化し、幻の『シックスパック』を取り戻したいです。

新人紹介

藤代薬局　瓜田（うりた）　麻衣（まい）

この度、株式会社ファルマの一員となりました瓜田麻衣と申します。前職では医療業界ではない仕事に就いてきましたが、今回ご縁がありこちらに入社させて頂きました。私1人では出来ることは限られているかもしれませんが藤代薬局の皆で地域住民の方が安心出来て、健康になれるようお手伝いしていきたいと思います。まだまだ不慣れではありますがご指導よろしくお願い致します。

弘前調剤センター　薬事課　乗田沙緒莉（のりた　さおり）

2月から弘前調剤センターで勤務している乗田です。今まで事務職や接客業の経験がなく、わからないことだらけですが、皆様に優しく教えていただき、少しずつ仕事を覚えています。まだまだ覚えることがあり、これからも迷惑をかけることがあると思いますが、頑張りますので、よろしくお願いします。

弘前調剤センター　薬事課　小笠原（おがさわら）　夢（ゆめ）

この度、入社いたしました小笠原夢と申します。前職では栄養士をしており、調剤事務は初めてですが、持ち前の笑顔で患者様を元気づけることが出来るよう、努力していきたいと思っています。よろしくお願いします。

写真紹介

青年雪かき隊

2月18日（土）に青森県民医連青年雪かき隊として、ファルマから4名が弘前市内の高齢者のお宅を雪かきボランティアをしました。参加者からは高齢者の方から雪かき終了後に「助かった、ありがとう」と言われ嬉しかったとの感想がありました。終了後は活動した青年たちで温かい鍋を囲みました。

雪かきボランティアに参加した皆さん

2017医学対大運動

2月24日（金）～26日（日）青森県民医連2017医学対大運動がありました。医師奨学生を確保するため、弘前大学医学部の受験生へチラシ配布や対話アンケートに、ファルマから7名が参加しました。

寒い中頑張りました!!

岩手医科大学企業セミナー

3月4日（土）岩手医科大学薬学部企業研究セミナーに、髙松利昌常務取締役と小山内佳乃薬剤師が参加しました。ファルマのブースには青森県民医連の奨学生を含め、数名の方が来てくれ、熱心に当社について質問をしてくれました。

学生を待っている小山内薬剤師

原発ゼロの未来へ 3・4全国大集会in東京日比谷

3月4日（土）東京日比谷公園で開催された「原発ゼロの未来へ3・4全国大集会」へ黒石薬局小田桐徳子主任が参加しました。集会には福島から250名もの参加があり、福島の現状を話してくれました。集会後は銀座を参加者で行進して、原発ゼロを訴えました。

参加した小田桐主任